

会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成21年度生涯学習センター第3回運営委員会		
事務局 (担当課)	教育振興部 生涯学習センター 内線4567 (757-8481)		
開催日時	平成22年3月25日 (木) 10時00分～		
開催場所	生涯学習センター 講義室1		
出席者	委員	大塚啓子、大音裕子、常行貞臣、山本房子、眞田真美、 山本 朗、田口 進 (欠席) 堀田啓子、大崎喜弘、渡瀬順之	
	その他	教育長、教育振興部長	
	事務局	中定久紀、喜田由加里、海野恵子、藤原育子	
傍聴の可否	<input checked="" type="radio"/> 可 ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	開会、挨拶 報告事項 (1) 平成21年度レフネックアンケート結果について (2) 平成22年度生涯学習センター事業について (3) 平成22年レフネック第17期生の公開抽選について (4) 平成22年レフネック第17期生の入学式について (5) 生涯学習センターの利用状況について (6) その他		
会議結果	別紙審議経過のとおり		

審 議 経 過

1. 開会

2. 挨拶

3. 報告事項

(1) 平成21年度レフネックアンケート結果について

事務局 調査対象は平成20年度入学の化学・薬学科と近代史学科、平成21年度入学の文化人類学科、経済・経営学科計4学科の学生267名に対して調査を行いました。216枚回収、80.9パーセントの回収率です（1ページから）。

【問1レフネックはどのようにして知られましたか】

「広報紙」と公共機関に置く「入学案内」との回答が依然として多く、また「知人」が1割強あり、概ね周知されてきている結果が表れています。なお、平成22年度より広報誌の発行が月1回となりました。22年度の募集は3月1日号に掲載しています。

【問2レフネックの講義について】

①申込み時と比べて

82.4パーセントの学生が「期待以上の内容、期待通りの内容」と回答しております。頂戴しましたご意見でも化学・薬学科の学生からは「現状を維持してほしい」「最先端の話をしていただき、“知らない事”の多さにびっくりしている」、文化人類学科の学生からは「前期はがっかりだったが、後半面白くなってきた」といったご意見もいただいております。

②内容について

79.2パーセントの学生が「よく理解できる、理解できる」と回答があったものの学科によっては「講義内容は詳細かつレベル高に思える」「マニアックすぎる、もう少し身近なところからやってほしい」とのご意見もございました。

③講義前後の予習復習について

46.7パーセントの学生が「常にしている、適宜している」との回答がありましたが、53パーセントの学生が「特にしない」との回答がありました。

④講義についてのコメント

化学・薬学科

「専門的な部分が多くて理解できないことが多い」「専門的すぎて少し難しい」

近代史学科

「素晴らしい先生方の講義に大満足」「学生時代の講義と同様の内容であるので非常に満足している」

文化人類学科

「内容は難しいが、言葉にならない目に見えない分野で大きな広がりがあり、人間の偉大さの様なものを毎回感じ楽しい。文化人類学の一人ひとりの先生方ってどんな人なんだろうと空想します」

経済・経営学科

「講義の内容に関心の大きい事項は本を購入して復習、補習をしています」それぞれ学科に対しまして様々のご意見がありますが、受講に対して熱心な姿勢がうかがえます。また、各学科とも「レジュメのないときには復習ができない」「資料前日配布でないと予習できない」と多々ありました。また、重複するご意見は省略しておりますが、「③講義前後の予習復習について」の間に「特にしていない」の回答がこれに該当しているのかなと思います。いずれにしても事務局は個々の学生の意見を踏まえながら配慮してまいりたいと思います。(次に3ページ)

【問3レフネックの事業運営について】

①課外講座について

例年本科と違って平日に開講するため、「平日は参加できないので、残念です」とのご意見をいただきます。また、「課外講座に新規のものを入れていただきたい」の不満の声もありますが、概ね満足いただいているという結果となりました。

②オープン講座について

こちらも平日の開催であることから課外講座と同様、参加が難しいこと、オープン講座の内容が自分の好み、関心のある授業であること、テーマが時期を得ており興味深く受講しているなどさまざまな意見がございましたが、おおむね満足いただいているとの結果となっております。

③学生委員会制度について

これは他の学習施設にはない制度であり、学生の自主的、主体的運営意識を育み親睦を深めることを目的にしているものです。学生委員会制度について理解を得られていない意見が少しはありますが、「このような学習参加は初めてなのでよく分からない」「学生委員会制度は当然だ、わくわくしている」とのご意見もあり、多数の学生に支持を得ています。生涯学習短期大学のカラーを出す取り組みですので、いろいろなご意見もありますが今後も同様に力を入れて取り組んでゆきたいと思います。

【問4今後、レフネックで学習したい講座内容は】

多いもので、「歴史」20.3パーセント、「自然科学」15.2パーセント、「生命科学」11.1パーセント、「心理学」9.3パーセント、「文学」と「社会学」9.1パーセントとなっております。過去の学科等を勘案し23年度の学科やオープン講座の計画に努めて参りたいと思います。なお、レフネックの科目は専門的かつ高度な内容を設定しておりますので、学生の要望は参考としてとらえる中で学生の自己実現できる内容を目指してまいりたいと思っております。(次に5ページ)

【問5現在、どのような生涯学習をされていますか】

昨年アンケート結果と比べて「レフネックのみ」が4パーセント増え44.4パーセントとなっているものの、半数以上の学生が「レフネック以外に他の学習施設でも学習している」結果となりました。例年、阪神シニアカレッジはもちろんのこと、今回は近代史学科で「奈良大学通信教育」「追

手門学院のオープン講座」「大阪音楽大学の講座」ということ、経済・経営学科で「大阪大学中之島講座」と大学での生涯学習を受講されている割合が昨年に比べて12.5パーセント増えています。そのほかに「ラジオ放送大学」といった回答もごさいます。(次は6ページ～8ページ)

【問6 習得された知識や貴重な経験を活用した講師指導等はされていますか】

【問7 市では様々なコミュニティ活動やボランティア活動の参加を推奨しています、このような地域活動化に繋がるような取り組みについて】

問7 ボランティア活動の参加について「参加している、機会があれば参加したい」と75.2パーセントの回答があるものの、問6の経験を活かした講師指導については「するつもりがない」と答えた学生が70.8パーセントあります。これは地域活動への積極的な参加は見られますが、自分ひとりで指導することに経験がないためか、消極的な意見となりました。事務局といたしましても少しずつ「講師指導している、したいと思う」という数字を上げていけるよう、学生とのコミュニケーションを図り、講師指導の機会を作ってまいりたいと思っております。

なお、個々のコメント、自由意見も学習に前向きに取り組む姿が見られ、学習のみならず日々の生活、生き方に影響を及ぼしている様子が見られるアンケートとなりました。以上でございます。

運営委員 非常に細かい学生の意見を書き込んでいただいております。じっくり読ませていただきます。このアンケートは毎年実施されておられるのですね。また、大体同じような数字でしょうか。

事務局 アンケートは毎年実施しておりますが、昨年と若干内容を変えているところは問6（習得された知識や貴重な経験を活用した講師指導等はされていますか）です。また、問2（レフネックの講義について）に関しては、例年、多くの回答を寄せられています。問5（現在、どのような生涯学習をされていますか）について「参加している」の回答が5～7パーセント増加しています。昨年に比べ、皆さんが生涯学習の場を求められる様子が数字となって顕れているように思われます。

運営委員 レフネックと他とを重複して参加されているようですね。

運営委員 これまで、学生に対して地域活動への参加を強く呼びかけておられてますが、学生、卒業生の変化について少し教えてもらえますか。

事務局 例年、地域活動、ボランティア活動につきましても一つの項目としてアンケートにあげさせていただいております。主に問7が昨年までの形ととらまえていただきましたら結構です。地域活動、コミュニティ活動、また、ボランティア活動への参加の意思はこれまで40パーセントでしたが、今回のアンケートは一步踏み込み、今までの経験を活かした講師指導など積極

的な関わり方についての設問（問6）を入れており、約23パーセントの方が講師指導していると回答されております。これはデータとして初めて採ったものです。前回の運営委員会においてお話しております、講師指導されたいという方について、人材バンク的な活用をしたいとの思いで、名前も伺っており、25名の方から紹介いただいております。一概に比べることはできませんが、問7コミュニティ活動への参加について75パーセントの方がコミュニティ、地域活動への参加を支持しています。毎年のアンケートと比べまして数字の上でも格段に増えております。

運営委員 アンケートを実施した当初は講座事業に対する項目が多かったように思いますが、先ほど説明の項目が増えているのですね。変動も見られているとのことですね。長期的スパンになりますが、変動を見ていくこと、将来学生の力をどうしていくのかが課題とされます。私が今、住んでいるところでも高齢者の方は自発的に随分やっておられるのですが、力の向け方がわからない、お互いにマンツーマンでやってられますが、組織的に、例えば行政のやっておられるところなどに接点を取る方法がわからない、そのあたりをこちらでもつかんでいかれたらと思います。

事務局 ありがとうございます。

運営委員 もし地域で講師指導をというお申し出があった時、マニュアルみたいなもの、ノウハウも必要だと思います。テクニックがわかれば習得された知識や経験を活かされる方も増えると思います。

運営委員 卒業生なりキャリアの方を講師として起用される際に、関わっていただく講座のレベルなども考慮されていかないといけないと思われます。初期段階の講座といった中で卒業生なりの講師を活用していったほうが、一気にレベルの高いところでの起用は非常に危険かなといった感がありますがいかがでしょうか。

事務局 前回運営委員会の際に、人材バンク的なものを設けまして地域活用、地域の活性化を目指していくこととし、また今回もご意見をいただきました。アンケートのデータを活用できるよう進めてまいりたいと思います。問6にいたしましても、センターとしても有効です。教える方にも、受講される方にも有益な施策として結びつけられたらと思います。その前段と言っでは何ですが、生涯学習センターでは「生きがい学習塾」を積極的に進めております。特に現役学生が非常に多く講師として手を挙げており、毎年10名の方に講師を務めていただいている実績がございます。加えてアンケートで寄せられました習得された知識や職歴など、貴重な経験を披露いただければと思っております。さらに委員から寄せられました「どういう接点でもって活用できるのか」との意見にですが、コミュニティからの照会

など、まだ手探りの状態でお受けしておりますが、本日、緑台・陽明地区コミュニティでレフネックOB生が1名、半日の講義をされます。コーディネートする中で時間設定や地域で求められる事業はまちまちです。直接、1対1で交渉しておるのが現状です。委員の皆様からいただきました地域、グループとの接点をとの意見をもとに今後も検討してまいりたいと思います。

運営委員 バックアップできる体制にあるとわかると、手を挙げる人も増えると思います。アピールをお願いします。

運営委員 教頭会で講師を招致している事例を説明します。社会経験のある市民の方を講師に研修の予算があります。2年前から事務局に講師を推薦いただいて勉強しています。学校現場にもつながれば、子どもたちや保護者にも還元できればとの思いもありますが、そちらは実現しませんでした。去年は食育の勉強と考えると猪名川町の道の駅、蕎麦打ち名人の方をお招きしました。ただ、それだけで収まっては教頭会の自己満足です。そこから「学校にお呼びしてもよいな」とシステム化すれば、講師からは同士の方を講師として紹介していただき、保護者にも広められます。生涯学習センター運営委員として何ができるのだろう、との思いから始めましたが、教頭会から学校現場への線は可能性として意図しています。予算は必要となりますが、PTAの予算などで続けられると思います。組織化、生涯学習で学んだことを広める場をシステム化すると講師体験の場は広がります。衰退することはないと思います。

事務局 平成21・22・23年と国の施策で学校支援地域本部事業を実施中、ゆくゆく市では中学校区での立ち上げを目指しています。学校の現場でも生涯学習の修了生を活用できるのではないかと考えております。安全、安心の問題もありますが、中学校区でくくれば、顔が見え、安全、安心が確保できます。また、徒歩圏、交通費もいらないので実施の際に低予算。個々に人材リストを持つよりはコーディネーターが必要と考えております。課題は、コーディネーターの育成と活動の場所、公民館も活動の場と考えて検討中です。事務局は社会教育室事務局、学校現場との連携ができれば中身の濃いものが可能となります。

運営委員 先ほど中学校の例を紹介していただきましたが、講師の起用は中学校の生徒と保護者も含めての実施ですね。どこで聞かせておられるのですか。

運営委員 今は教頭会だけです。もともとは教育的なお話を聞いておりましたが、やはり生涯学習、企業でがんばっておられた方から、教育以外のお話を聞いて栄養とするのが研修のねらいです。

運営委員 それでしたら、生涯学習センターレフネックで勉強されたことが生きてくるわけですね。子どもと保護者を対象として何かをされるときにこちらからの人材を活用されるのかと思いましたが。

運営委員 そちらにも可能性があると思います。いま、幼稚園、小学校、中学校を含めた中学校区での研修といえば人権学習があります。事務局から人権教育に関わる論文を書かれた方を推薦していただければ、その方の話を聞くということも。

運営委員 講師としてでしょうか。

運営委員 はい。場合によっては、今までに豊富な人生経験をお持ちの方というのは、幼稚園児、小学生、中学生に対して話のできる方だと私は思っております。「お引受けしましょう」と言っていただけるような展開を拓けることができればと思います。

事務局 技術をお持ちの方を、野球、サッカーなどクラブ活動のなかで求められる場合もあります。コーディネートできる方さえあれば。

運営委員 技術的なことであれば。

運営委員 学校現場と生涯学習センターの連携ということは教育振興部長とも常々言っておりました。自分が運営委員だ、何かしないと、と思って声をあげたらこのようになった次第です。講師は非常に熱心です。聞いた側もこれを伝えていきたいと強く思います。

運営委員 期待します。

事務局 学校支援地域本部についての会合では、社会教育委員代表の運営委員にも発言をいただいております。また、その前身といえるいきいき学校応援団（事業）でレフネックの学生が中学生の授業を持ち、異常な人気で希望者全員は受講できない等、うれしい苦情を漏れ聞いたこともあります。子ども達に人気であったという実績もいただいております。今後も運営を進めてまいります。

（２）平成22年度生涯学習センター事業について（資料2 13ページ）

資料2のとおり説明

1. 生涯学習事業の推進

（1年次2学科、2年次2学科。概要は第2回運営委員会で説明済）

（１）生涯学習事業の推進

応用工学科「私どもを取り巻く周辺社会への先進工学分野の貢献」

文学・文化学科「京阪神を探訪する」
文化人類学科「文化人類学・民族学入門」
経済・経営学科「経済・経営の基礎とグローバル化」

事務局 「応用工学科」「文学・文化学科」は3月15日から募集を受け付けておりますが、すでに定員を超えており公開抽選が確定しております。昨年度より募集期間を1ヶ月間ほど設け、受講したい学科をじっくりと選定していただけるようにつとめております。4月14日到着分まで受付を行っております。次の議題となりますが、4月17日の公開抽選を実施させていただきますので委員の皆様のご協力をお願いしたいと思います。

(2) オープン講座の開設

認知心理学講座「記憶の不思議を知る」

6月に4回コースで開催。

関西学院大学の浮田潤教授。

服飾講座「ファッションの変遷史 その発生から拡大まで」

9月に3回コースで開催。

(財)神戸産業振興財団 神戸ファッション美術館の百々徹学芸員。

宇宙科学講座「月・固体惑星探査とサンプルリターンの新時代」

11月に4回コースで開催。

大阪大学のつち山明教授。

(3) レフネック 課外講座の開設

パソコン教室 (5回コースを4回)

陶芸入門教室 (7回コースを1回)

郷土史教室 (5回コースを1回)

事務局 パソコン教室では、講師として生涯学習短期大学において知識を構築された「PCクラブ」「PC同好会」から講師を招聘、市民参画事業とすることで経費的な削減を得られ、何よりもレフネック修了生の実践指導の場を確保することによって、学問の知識や学問の見識を深めるといった生涯学習センターが持つ本来の役割の深化を目指してゆきたいとも考えております。

(4) レフネックの在校生、OB生による生きがい学習塾の開催

生きがい学習塾 10回

事務局 レフネックの在校生、OB生が講師となり、レフネック在校生対象に実施するものです。各講師の知識や経験を披露していただきます。生きがい学習塾を経験して、中学校の講演会や地域コミュニティでの講演会等への講師依頼もあります。学校教育や地域教育の活性化に貢献しつつある事業で

す。

- (5) レフネック入学式、修了式での学長式辞及び学長講話
入学式及び学長式辞 5月15日
学長講話 10月(予定)
修了式及び学長式辞 平成23年2月中旬

2. 自主学習グループへの支援

- (1) 学生委員会の開催
- (2) レフネックにおける在學生及びOB生の自主学習に対する、部屋の提供と助言指導
- (3) 生涯学習センターを拠点とした自主学習グループに対する部屋の提供

3. 生涯学習センター運営委員会の開催

事務局 平成22年度は第1回を11月頃、これは、平成23年度の学科企画等を中心といたします。第2回は2月頃を予定しておりますが、懸案等、生じましたら3月の開催もお願いしたいと考えております。

4. センターの施設管理

運営委員 生涯学習グループへの支援についてお聞きします。OB生の自主学習に部屋の提供をされているということですが、先ほどのアンケートの中で「OB会という事ではなく同好会を考えてもらえばどうですか」といったご意見が出ていたようですが、こういった要望はあるのでしょうか。

事務局 OB会にはさまざまな形態があります。学科を中心とするもの、また学科の中でも例えば太極拳であったり、ダンスなど特化してクラブを作るものもあります。自然的には修了式のあと同窓会的な会を作られます。様々な成り立ち、発展の形はありますが、事務局として見守っております。

運営委員 事務局がある程度サポートするという意向ではないのですか。学生の自主的な活動に対して、所長が側面的に指図するのではなくて、ある程度の考えを持って学生をサポートしてください、というのが学生委員会ですね。同好会というのとは少し違うと思うのですが。学生委員会というのはある人から見れば堅苦しいというか、意に沿わない方向があることがアンケートに反映されているのでは、と思ったのですが。

事務局 アンケート3ページ「問3 レフネックの事業運営について④事業運営について」のコメント「OB会について、OB会を止めて同好会にして輪をひるげる」について、この方から「OB会をつくっても年齢等の事情で次第

に衰退していくと思うので、学科には入学されなかったが、ともに活動したいと思う方が入会できる同好会を作ったほうが長く続くのでは」との思いを伺っております。

運営委員 学科の修了生以外にもう少しほかの人も入れて、という考えですか。

事務局 そのとおりです。OB会は修了生だけの集まりです。このご意見がその後協議されたことはありませんが、同好会のほうが長く続くとお考えでした。

運営委員 会員が減って衰退する、同好会とはそうしたものではありませんか。

運営委員 外の人を入れての同好会であれば、こちらを活動の場としなくてもよいのでは。OB会と同好会、線引きがむずかしいところがありますね。

事務局 事務局といたしましては、毎年生涯学習センターを使用される団体には名簿を頂戴しております。OB会であるのか、同好会であるのか審査させていただいた上で、OB会として認めます。

運営委員 もしこの方が学科で同好会を作りたいのであれば、別のところで会を作られればよいのですね。

運営委員 同好会はかなりあります。古代史のOBの一部の人が会員の「涯友会」があります。古代史が好きな者が歴史探訪と健康のためのウォーキングを毎月1回しますが、これはレフネックOBと恣意の方もおられ、会員65名。あとパソコンクラブ同好会、年々盛況です。デジタルカメラ同好会、ほかにもあります。そうになっていくのではないですか。

運営委員 ここ川西市では自然発生的なグループ活動はたくさんあります。公民館活動も活発です。同好会の活動であればこちらで活動されるのは、ちょっと違うということでしょうか。

運営委員 生涯学習センターにも登録グループがあって、OB会という名前をつけなくても登録グループとしての選択肢がありますね。べつのアイデアも持てるということですね。

運営委員 同好会はオープンです。最近はゴルフクラブがあります。OBとロコミ会員で。レフネックだよりでの入会案内を読まれた方とか。

運営委員 修了生が年代を超えてOB会に入るのは自然に思われるのですが、レフネックにも入っていない、修了もされていない、ただ、そのことが好きでO

B会に入られるのは少し不自然な感じがします。

運営委員 第一期生からとなるとずいぶん長いもので、会員が10名を切って5名になった、自然消滅というのもボツボツみられる話です。

運営委員 また新しいものが出てくるわけです。ただ大きくなるというのもどうかと思います。先ほどの意見にありましたように、登録グループとして自主運営すれば良いのではないかと思います。

事務局 レフネックも開設して17年目となり、もともとOB会であったものが発展されることもあります。

運営委員 こちらに活動報告はあるのですか。まったくお構いなしでしょうか。

事務局 部屋を使われる際には活動報告をいただいております。こちらを一つの拠点とされることもあります。情報交流としては、レフネックだよりなどもあります。活動の様子などOB会が互いに刺激を受けながらの活動となっております。レフネック交流ルームは現役、OB生にお使いいただいております。同窓会が発展して現状は同好会になっている場合もあります。

運営委員 OB会のくくりであっても現状は同好会であってよろしいということですか。

事務局 名簿を確認させていただいております。

運営委員 ケジメはある程度つけておかないと。

運営委員 規約を定めてはどうですか。たとえば80パーセントOB生とか。厳しいかもしれませんが。

運営委員 チェック機能は必要かと思われれます。

運営委員 懸念しております。事務局でも様子を見ていただけたらと思います。

運営委員 OB会として登録する以上、修了生で。まったくほかの人がたくさん入っていった場合、それでもOB会といえるのかどうか。こちらを基盤として登録する以上、修了生、ほかの方がおられるのであればグループとして部屋を使っただいたは如何かと思えます。

事務局 グループを超えてのOB会のあり方もございます。目的を同じくするOB会が合体する形もございます。その場合にはOB会として部屋を使用して

いただきます。

運営委員 活動の主体が修了生で、イベントに一般のかたも参加されるのは別によろしいと思います。

運営委員 部屋を使われるOB団体はまず登録されるのですね。事務局で判断されておられるのですね。会員名簿、活動など。

事務局 OB会についてもこの4月から有料化にともない使用料をいただいております。一般のグループとの違いは15名程度の会議でこちらを使われる場合、交流ルームを設けておりますが、現役生とOBであればこのお部屋だけは無料で使っていただいております、他は登録グループと同様、使用料を徴収しております。

運営委員 オープンスペースは無料ですか。

事務局 交流ルームだけ無料です。

運営委員 OBが1人おれば交流ルームを無料で使えるというのでは問題ですね、果たして、そのような便宜を図る必要があるのかと。

事務局 ご指摘のようなケースは多々ありますが、そのような場合はすべてお断りしております。また、他の施設から移ってこられるグループの中に一人だけOBがおられるといった場合もあります。

運営委員 そうですね。ある程度けじめをつけていただかないと。

(3) 平成22年レフネック第17期生の公開抽選について

事務局 公開抽選について委員の皆様をお願いしたいと思っております。入学案内の2ページに募集定員を超過したときは4月17日(土)午前10時より公開抽選を実施しますと記載しており、すでに定員を超過しております。また、例年審議していただいております優先入学枠につきましても、すでに定員の20名を超過しそうな状況です。往復ハガキでの申し込みは1昨年より実施しており、昨年は運営委員2名による公開抽選をいたしました。各位におかれましては年度始めの時期、ご多忙のことと存じますがご助力をお願いしたいと思っております。

運営委員 二人いますね。

事務局 そのとおりですね。抽選札を引いていただく方と読み上げていただく方です。

運営委員 抽選会に出席すると当たらないといったジンクスがあると伺ってから、すごくプレッシャーを感じております。かき混ぜており、中は見えないし、すごく厳正なのですが、はずしてしまったかと思うと、その人に悪いかないと思います。今年はお引受けいたします。

公開抽選 平成 22 年 4 月 17 日（土）午前 10 時より

大塚運営委員長、大音副委員長のご協力により実施（決定）

（4）平成22年レフネック第17期生の入学式について（資料3）

事務局 入学式を平成 22 年 5 月 15 日（土）10 時から行う予定です。運営委員の皆様には、近日中にご案内の予定ですが、ご臨席をお願いします。なお、毎年委員長には写真に参加をお願いしておりますので、30分早く9時30分からご臨席をお願いいたします。

（5）生涯学習センターの利用状況について

事務局 年度途中ということもあり、今年度 2 月末までの状況についてご説明申し上げます。昨年度の利用実績を越える勢いでの利用でございます。昨年 4 月申込分からご利用されている方から使用料をいただくこととなり、有料となったことからご利用が減少することを懸念いたしておりましたが、使用料の徴収をさせていただいても、窓口で大きな混乱はございません。おおむねスムーズに進んでおり、利用者には、ご理解いただいているかと考えております。また、使用料につきましても、各グループでもちまして利用時間をあらためて検討され、利用時間の短縮、使用料の軽減等に努められておられるようで想定していた収入・予算額には至らない予定です。また、利用の申込、取消等、手続きにより、例えば、一度お収めいただきました利用料の一部を還付することで仕組みを理解していただきましたり、事務量は増大しておりますが、円滑に進んでおります。運営委員会におかれましても、また、問題等生じましたら、その都度ご報告、またご進言いただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

（6）その他

平成 21 年度の修了式において、一人の学生が修了証書授与（代表）と感謝の辞、お別れパーティーの司会者をつとめていると運営委員より指摘、協議。今後について

◎式典の役割り、人選は 1 人 1 役となるように事務局にて調整する。

◎お別れパーティーは学生の主催であるが、企画・進行など修了生の学生委員全員でよく協議して進められるよう事務局から指導する。

上記 2 点を確認、合意した。

その他特記なし

4. 閉会

